

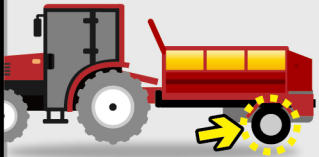


タイヤ

事故事例を教訓に適正作業で
事故ゼロを目指しましょう!

整備作業 注意情報

事例 1



農業機械用タイヤ【リム径の呼び15】を
誤組みし、タイヤとリムが暴発!

古い輸入農業機械等に装着されているタイヤとリムの中には、表示されているリム径の呼びが15であっても、実寸が15.3のものがあります。適合しない組み合わせでリム組みし、空気充てんしたためにタイヤとリムが暴発した事例があり、大変危険です。

交換時の確認事項

■ タイヤ側面の表示を確認

- a タイヤに『15×10JJリム専用』や『輸入リムには組めません』の表示がある場合は、その表示に従ってください。

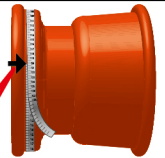
ここに表示



- b リムのサイズがわからない場合や輸入リムかどうかわからない場合

リムのビードシート部の周長を実測します。

メジャーを使ってホイールのこの部分を正確に計測。



計測結果

リムのビードシート部の周長	交換するタイヤのリム径呼び
約1,194mm	15
約1,219mm	15.3

■ 空気充てん時の注意

農業機械用タイヤのビードシーティング圧を遵守!

使用空気圧	ビードシーティング圧	※左表にかかわらず、タイヤメーカーの指示がある場合はそれに従うこと。
250kPa以上 250kPa未満	250kPa 使用空気圧	

事例 2

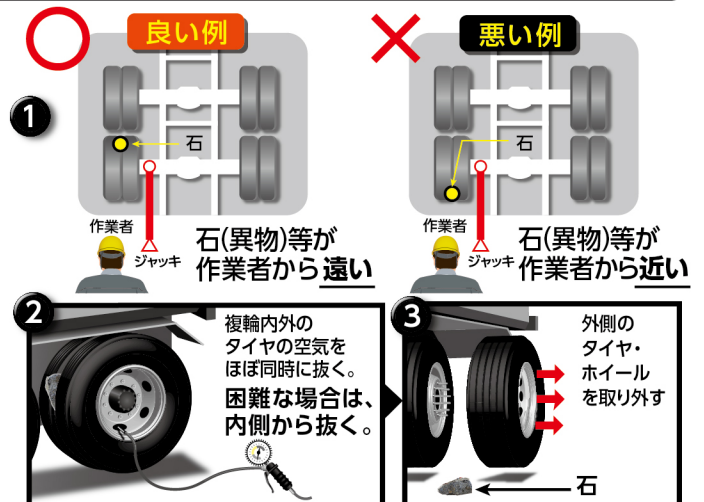


複輪間の石噛み除去後、タイヤが破裂!

複輪間に噛み込んだ石を、空気を抜かずに取り除き、サイド部にダメージを受けていたタイヤが破裂した事例があり、大変危険です。

石噛み除去の正しい手順 (作業時はヘルメットを着用してください。)

- 右図のように、噛み込んだ石(異物)等から最も離れた位置で作業者はジャッキアップする。
- 複輪内外のタイヤの空気をほぼ同時に抜く。
 - 同時に抜くのが困難な場合は、内側のタイヤから先に空気を抜く。
 - 空気を抜いている間、作業者はできるだけタイヤから離れる。
 - 内側のタイヤの空気が抜けたら、5分以上放置し、外側のタイヤが破裂しないことを確認し、外側のタイヤの空気を抜く。
- 空気が抜けきった後、外側のタイヤ・ホイールを取り外し、噛み込んだ石(異物)等を取り除く。
- 内側のタイヤ・ホイールを車両から取り外す。
- 噛み込んだ石(異物)等によって、内側、外側それぞれのタイヤが損傷していないか確認する。損傷したタイヤは使用しない。



自身で損傷の有無を確認できない場合はタイヤ販売店等にご相談ください。

※上記のイラストは、全てイメージです。